人権問題学習シリーズ 44

【認知症防止と生き甲斐探し】

今、認知症の人の割合が増加し、全国の85歳以上の人では、その割合は2割に達すると言われます。

本町の「疾病別医療費」についての統計によると、高い方から1番目は、高血圧などの「循環器系疾患」に使われる経費で24%、2番目は糖尿病等の「内分泌・栄養・代謝疾患」に使われる経費で13%、次いで、認知症などの「精神行動障害」に使われる経費が3番目で12%になっています。

「いくのさん家」理事 竹本匡吾さんは、認知症は、“生活の中で自分が受け入れられないという思いが強くなってしまふことが、重要な一つの要因になる”と説かれます。

そして、“これを防ぐには、家族が本人を冷たく扱ったり、疎外感を持たせない配慮が必要である。また、本人自身が日々の生活の中に、生き甲斐をつくっていくことが予防になる”と説かれます。

私の生活の中での生き甲斐として何があるのかを考えてみました。やっけていて楽しいのは囲碁です。強くはないけれど、一晩中もやっていたいほどです。囲碁が生き甲斐という域には達しませんが、人生の楽しみとして大切にしたいと思います。

囲碁と同じくらい好きなのは磯釣りです。釣れると我が家の食料の足しになります。さらに、冷凍食品と違って新鮮で美味しくいただけます。なかなか釣りに行く時間がとれませんが、私の生き甲斐の一つとしてこれも大切にしたいと思います。

その他には畑での花づくり。自分の育てた花を勤務先に持って出て飾ってもらいます。見る人の心が和むと思うと嬉しいものです。また、庭木の手入れをしたり、鉢植えを玄関先に並べていますが、これも訪問者への心遣いと考えています。

自分の好きなことをして、それが周りの人に役立つ、さらに自分の認知症防止に役立つとなれば、これらを私の生き甲斐と考えて続けたいと思います。

たのしくて 元気が出る！ 岩美町青少年健全育成講演会

講師：矢野 ^{やの} ^{たいわ} 大和 氏

演題：「生きる力を考えよう」

とき：平成19年12月8日(土) 午後1時30分～

ところ：岩美町中央公民館

講師プロフィール

大分県出身。青少年育成、人権問題、町おこしなど幅広い分野にわたって得意の落語を活かしながら全国各地で口演活動(矢野さんは講演を「口演」と表現します)を行っている。

問い合わせ先

岩美町青少年育成協議会事務局
(町教育委員会内)

☎73-1302 FAX73-1569

第59回人権週間

平成19年12月4日(火)から10日(月)までの1週間は、人権週間です。

この週間は、昭和23年12月10日の第3回国際連合総会において「世界人権宣言」が採択された日を記念して定められ、今年で59回目を迎えます。

「世界人権宣言」は、基本的人権及び自由を尊重し確保するために、世界のすべての人々とすべての国々とは達成すべき共通の基準を定めています。

※人権の尊さを知り、お互いに相手の立場を考え、大切に人権尊重※

今一度人権尊重について考えてみませんか。

部落解放講座を開催します

テーマ 「部落」「差別」って何？

自分たちが思ってきた「差別」って何なのでしょう。「部落」って何なのでしょう。

もう一度立ち止まって考えてもいい時期ではないでしょうか。

【日時】平成19年12月8日(土)

午後1時30分～午後3時

【講師】鳥取県福祉児童センター

児童相談課長 井上 和之さん

【演題】「児童虐待の防止は地域の関係性から」

問い合わせ先

岩美町文化センター

☎72-1931